ありがとう！ ごみ・環境ビジョン21は ここから始まり、20周年を迎えました

ごみ・環境ビジョン 21 は、1998 年 5 月 30 日、国分寺Ｌホールで設立総会をして活動をスタートしました。それから早や 20 年。任意団体→ＮＰＯ法人→任意団体、と変遷はあったものの、ごみに特化した活動に邁進し、心強い会員の皆さまに支えられて 20 周年を迎えることができました。

発足のきっかけとなったのが、1996 年 12 月 21 日の“三多摩発アクションフォーラム「21 世紀のごみを変える」”です。旧小金井公会堂の大ホール（定員 800 名）を満杯にして、当時あまり情報のなかった環境先進国ドイツからゲストを招いて開催し、「ごみは減らせる、あきらめないで」というメッセージを参加者全員で共有しました。この「あきらめないで」を思い起こし、活動のエネルギーにしてここまでやってこれたことを、まずは会員の皆さまと喜び合いたいと思います。　＊コメントを寄せてくださった皆さま、どうもありがとうございました。

市原賤香（小金井市）

地道に続けてきた提案型の市民運動が 20 年を迎えたのですね。おめでとうございます。

20 年前私は日の出町のごみ最終処分場の反対運動に加わっていた。その頃、生協や市の労組など複数の団体で、ドイツの環境自然保護連盟のシュルツ氏を招いて講演会をもった。その講演を聞いて日本のごみ問題の取り組みも今後は市民参加・提案型の運動へと変っていくと思った。そのナビゲーター役を今日まで地道に続けてきたごみかんに、拍手。

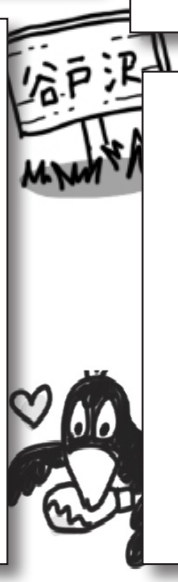
小平・環境の会　高梨孝輔（小平市）

始まりは 1996 年の三多摩発アクションフォーラム「21 世紀のごみを変える」だった。ドイツフライブルグの環境自然保護連盟のＥ・シュルツさんは「ごみは必ず減らせます」と訴え、ぼくらは勇気と希望をもらった。ぼくらの努力で脱焼却、脱埋め立ての時代がやってくる、そう信じられた時代。当時はダイオキシン汚染問題が新聞を賑わし、日の出町の第二処分場建設阻止のトラスト運動が行政にごみ政策の見直しを要求していた。あれから 20 年、何が変わって何が変えられなかったか。

東村山エナジー　共同代表
吉森弘子（東村山市）

20 周年、おめでとうございます！

「マヨネーズはシートを突っつくカラスの大好物。チューブは半分に切ってから洗って出してね」。ごみかんに関わる人たちからは、先進的な海外事情に始まり、ごみ行政の動向、日常的な生活の知恵まで、本当にいろいろなことを教わってきました。通信を、毎回心待ちに読ませていただいてきました。NO ！プラスチック、社会に広がってきたかな。



NPO 法人 コミュニティひろば・藤の台
吉﨑洋子（町田市）

≪ 21 世紀のごみを変える≫ためのビジョンの実現に向けてスタートしたごみかん。一歩一歩進むうちに、確かに変わってきたね！

＜燃やす・埋める＞から＜燃やさない・埋めない＞へは、日本のみんなのビジョンになった。でもまだ課題はいろいろ、これからの 20 年（?!）もがんばれ！　活動から離れても、心はいつもごみかんと共に！

ごみかんドイツ特派員　田口理穂（ハノーファ市）

ごみかんさんとのご縁は、2000年にメンバーの江川さんや吉崎さんとのドイツ環境視察の珍道中に遡ります。

翌年からごみっとに書き始めて早17年、子育て欄も10年になりました。読み返すと、慣れないドイツの日々や明の成長ぶりが思い出されて懐かしい。みなさんに読んでもらい、見守られてここまで来たなとしみじみ感じます。いつも元気を与えてくれるごみかんさん。これからも頼りにしてます！

「アースの会」代表　宮良弘子（那覇市）

ごみかんさんとの出会いは、「ゴミのへらしかた」という絵本がきっかけです。ドイツ在住の環境ジャーナリスト今泉みね子さんに勧められた、貴団体制作の絵本でした。

ごみ減量の本質を伝えている素晴らしい内容でした。あれからずっと「ごみっと・SUN」の愛読者です。毎回、興味深い情報をいただき、ここ沖縄での活動にも大いに参考にさせてもらっています。

あさお生きごみ隊（川崎）　飯田和子（川崎市）

人は地球上の有限な資源を使って生活を営んでいます。また、人の生活がある限り、ごみはどうしても避けられません。ごみにせず循環させる技術や仕組みの追求が続きます。

貴団体がネットワークを活かしてわかりやすく解決に向けて課題を整理してくださっていることに感謝いたします。沢山のことを教えていただきました。これからもどうぞよろしく！

東洋大学教授　山谷修作（越谷市）

節目の20周年おめでとうございます。

ごみかんは「市民ごみ大学セミナー」や「生ごみリサイクル交流集会in多摩」を開催し、市民、事業者、行政によるごみ減量の実践や、研究機関による調査などの情報を発信してきました。

自治体ごみ政策を研究する私にとって貴重な情報源かつ交流の場として役立っています。これからも「市民目線の情報発信」お願いします！

小泉啓子（小田原市）

発足から20年とのこと。おめでとうございます。これまで続けて活動してこられたのは、スタッフの方々の献身的なご努力があってこそと思います。ありがとうございます！

業界・自治体・市民それぞれの立場からの声や最新情報をを届けてくださるのはとてもありがたいです。これからも楽しみにしていま～す !!

松原政江（昭島市）

『21世紀を担う子どもたちによい環境を手渡したい』と昭島市でごみ問題に取り組んできました。この20年の間「最終処分場」「容リ法」「ダイオキシン」「家庭ごみの有料化」などなど、実に様々な問題にぶつかる中、そのたびに、ごみかんのいつも内容の濃いセミナー、学習会、そしてごみっと・ＳＵＮ等に助けていただきました。今後ともよろしくお願いします。

伊藤ゆり子（江東区）

ごみかんさんの発信する情報には、沢山たくさん学ばせていただきました。ごみ問題をさまざまな角度で掘り下げ、また分かりやすく伝えていただき、どんなに参考になったことか。特に丹念に調べ上げたデータや思わず笑ってしまうイラストなど、“ごみっとＳＵＮ”は毎回届くのが楽しみな愛読書です。こどもたちの心に届く「ゴミのへらしかた」の絵本、活用いたしましたよ。

星の環会　栗山佑子（新宿区）

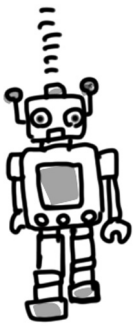
ごみかんのおばさんたちの多摩地区パワーはホンマモンでした。小さな事務所で熱気溢れる皆さんの活動、そして素敵な実力派理事長さん。
行政や教育関係者まで動かして勉強を続ける市民活動は、東京・新宿の私にまで大きな影響を与えてくださいました。
「ゴミのへらしかた」や「ごみ問題を子どもに教えるためのガイド」を弊社で出版した時は楽しかったですね。これからもごみ減量と資源化の活動は、家庭から自治体、地域、全国へと波及していくことでしょう。

東　陽一（横浜市）

ごみっと・ＳＵＮに出ている各自治体のごみ減量・資源化の比較データは大変有用で、どのごみの減量や資源化が必要かよくわかります。それを見ていると、今後は発生抑制と再使用がごみ減量の大きな柱になりそうです。
食品ロス対策や中古品市場の拡大など、多くの人が楽しみながら取り組めそうなネタもあります。人は理屈よりも楽しさで動くもの。そういう活動を期待いたします。

美住リサイクルショップ運営委員会
上村麻弓（東村山市）

ごみかん 20 周年、東村山市の夢ハウスと同い年ですね！継続させる努力の結果ともいえるし、解決しなかった結果ともいえるジレンマがありますが、地道な活動と情報発信は、きっとみんなに染み込んで、花を咲かせる時を待っています。
この間、世界の脱プラスチックはどんどん進み、日本だけが取り残されてる中の救いの糸です。お互い引き続き頑張りましょう。



クリーンむさしのを推進する会
石川洋一（武蔵野市）

ごみ減らし青い地球を次世代に！の想いを持ち、行動は足元からと 20 年間ごみ問題に取り組んできましたが、「ごみっと・ＳＵＮ」は常に貴重な運動の羅針盤でした。最近 6 号の「食品ロス削減・札幌市」の記事から“好き空き冷蔵庫！”運動展開のヒントをもらいました。
当方は想い先行・行動遅滞型の身になりましたが、ごみっと・ＳＵＮは次世代のために羅針盤役を今後ともよろしく！

川崎市・ゴミを考える市民連絡会
奥山玲子（川崎市）

1996 年「川崎・ごみを考える市民連絡会（川崎・ごみ連…2012 年に解散）」の一員として、容器包装ごみを生産者責任で回収・リサイクルしているというドイツのシステムの話を聴きに、ごみかん発足のきっかけとなった講演会に参加しました。
後に、川崎・ごみ連でやっていた（今も）"農家とつなぐ生ごみリサイクル”をごみかんの交流会で紹介する機会を得ましたが、現在、川崎市ではダンボールコンポストが広がりを見せている一方、〝農家とつなぐ生ごみリサイクル”に一層の難しさを感じています。大都市での生ごみリサイクル情報を注視していきます。

ひの･まちの生ごみを考える会 代表　佐藤美千代（日野市）

祝 20 周年！　その間いろいろなご苦労があったと思いますが、「ごみっと・ＳＵＮ」やタイムリーな講演会など、本当にお世話になり感謝しています。
とりわけ今年で 10 回目となる「生ごみリサイクル交流集会 in 多摩」は、多摩地域のみならず全国ネットワークの「交流の場」として定着してきており、今後も細く長〜く継続されることを願っています !!

伊地知仁子（日野市）

1998 年は三多摩のごみの最終処分場「谷戸沢」の埋め立てが終わった年でした。隣接する自然豊かな沢に次の埋立処分場「二ツ塚最終処分場」の建設が強行されるなか、ごみかんの人達と出会いました。この 20 年処分場の「延命」という成果は出ましたが、廃棄物の排出量は高止まりでゼロになりません。持続可能社会に向けてこれからもごみかんに期待しています。

生ごみ堆肥化めぐみネット・羽村

戸井田久美子（羽村市）

ごみかんの会員になって埋め立て焼却ゴミを減らしたいと多摩地域からの生ごみ堆肥化に取り組んで来た。何よりも二ツ塚というごみの処分場の問題を近くで見聞きした事が解決したいとの思いを後押しした。

たい肥化協会の生ごみリサイクル交流会では瀬戸先生、会田さん他多くの方々、自治体、先進団体の紹介された取り組みに刺激をもらった。私達のめぐみネットの発足へと繋がっていった。ごみかんの数値化した各自治体の排出量別のデータは説得力がある。ごみかんの繋がりからたくさんの情報、データ、知識をいただいた。これからも羽村から堆肥化のひろがりを進めて行きたい。

環境を考え行動する会　天野悦子（川崎市）

20 周年おめでとうございます！

この間、多摩地域のみならず、周辺の自治体を含め、それぞれのごみ問題を正面からとらえて、問題解決に向け発信し続けてこられた貴会の活動に敬意を表します。

当会はやっとその半分の年月ですが、6 年前にごみっと・ＳＵＮの原稿を依頼されたことから始まり、沢山の情報をいただきました。感謝を込めて、今後のご活躍を期待致します。頑張りましょう！

NPO 法人 えこひろば

代表　阿部晴子（世田谷区）

世田谷で、資源やエネルギーを大切にする暮らし方を地域に広げたいと活動しています。

私たちの活動も、「ごみをこんなに出す暮らし方が本当にいいの？」という疑問からのスタートでした。ごみ問題が、個人の暮らし方の問題だけでなく、地域の課題、地球の未来に関わる大事なテーマである事を気付かせてくれる、視野の広い持続可能な活動をこれからも期待しています。

有機農産物普及・堆肥化推進協会

会長　浅井民雄（多摩市）

ごみ・環境ビジョン 21 の 20 年の活動に敬意を表します。

日の出埋立て処分場反対の活動から生まれた貴会が、20 周年を迎えるまでに持続できたのは、多摩市民の心ある人たちの心意気を代表して来られたからだと思います。

日本での焼却中心のごみ処理を転換させ、地球環境への配慮を最優先にした資源化を基本にした廃棄物処理に政策転換させる活動の推進を期待します。

クリーンむさしのを推進する会

白石ケイ子（武蔵野市）

マイバッグに取り組んだ 2000 年は、杉並区がレジ袋に 5 円の環境税をかける構想を発表した年でした。04 年にごみかんが開催した「レジ袋削減！交流会」には、東京都生活文化局・ＯＫストア（レジ袋を有料化）・多摩地域の市民３団体が参加し、大成功。私も当会の活動を紹介させていただきました。

2005 年には「お買い物はマイバッグで」ポスターを作り、市内全域に貼りました。後でわかったことですが、このポスターの絵はごみかんの井上さんの作品で、今も街の中に生きていて、時折拉致されています！